

おわりに

各事例の成果や課題から、次のような指導が授業改善の方策として有効であったことが分かる。生徒の実態に合わせて、各事例をアレンジしたり考え方を参考にしたりして御活用いただければ幸いである。

1 言語活動の充実

公示された新学習指導要領では、改訂の主な改善事項の一つとして「言語活動の充実」が掲げられ、「国語をはじめ各教科等で批評、論述、討論などの学習を充実」というように、指導の方向性が示された。現行の高等学校国語科の学習指導要領にも全24の言語活動例が示されていたが、新学習指導要領では、他の教科においても「言語活動」の重要性が示されたわけである。今後とも、国語科は言語力を育成するために中心的な役割を果たさねばならない。

事例1、**事例2**では、自己評価や相互評価を取り入れた創作活動をさせている。**事例3**では、作品と関連する文章を読み比べて考えたことを文章にまとめさせている。このように、文章の理解を深めたり、興味・関心を広げたりするために、言語活動を効果的に取り入れることが大切である。

2 グループ活動やワークショップ型の学習活動によって、生徒同士が主体的に学び合う授業へ

生徒を主体的な学びに導くためには、チョークとトークによる教師主体の授業ばかりでなく、グループ活動やワークショップ型の学習活動などを通して、主体的に考えて学び合う生徒主体の授業を展開する必要もある。

事例1では、発想を広げるために、グループでマインドマップ作ったり小論文をグループ内で相互評価させたりしている。**事例2**では、創作活動に相互評価を取り入れている。**事例3**では、読み比べの学習をグループで行わせている。このように、生徒が主体的に学び合う国語教室を作することは、コミュニケーション能力の育成の点からも大切である。

なお、生徒や学習集団の実態によっては、グループ活動などに不慣れであったり不得手であったりすることもある。したがって、グループ活動などを導入した当初は、期待した成果がすぐには見られないこともあろう。特に、学習活動として相互評価をさせても、生徒は人間関係に気を遣うあまりに相手に遠慮をし過ぎて、文章の推敲に生かす評価・批判がうまくできないこともあろう。性急に成果を求めずに、粘り強い指導を続けることも必要である。

3 「情報の取り出し」に偏らない「読むこと」の指導を

高等学校「国語」の教科書に採録されている作品は、生徒の読書の傾向と比較して難易度が高い。いきおい、「何が書いてあるか」を読み取ることに指導に偏りかねない。しかしながら、「情報の取り出し」に偏った指導では、生徒の学習意欲を喚起することや、「読む能力」を生徒に実感をもって身に付けさせることは難しい。

また、目的に応じて、文章形式の「連続型テキスト」だけでなく、表、図、グラフ、地図などの「非連続型テキスト」を含む様々な文章や、身の回りの広告などの実用的な文章、映像なども教材として取り上げ、実生活で活用できる読解力を育成したい。

事例2や**事例3**では、「どう書かれているか」、「なぜそう書いたか」、「その書き方は適切か」などと問うことで、書き方を吟味させたり、批判的に読み取らせたりしている。また、**事例1**では新聞、**事例2**では映像、**事例3**では比べ読みをするための資料を、それぞれ教材として取り上

げて活用している。このように、読む目的や身に付けさせたい能力を明確して、「情報の取り出し」に偏らない指導を工夫したい。「PISA型『読解力』」の指導の視点を取り入れて、「情報の取り出し」だけではなく、「解釈」、「熟考・評価」、「表現」などの指導を工夫することで、実社会で活用できる読解力を身に付けさせ、国語を学ぶ有用性を生徒に実感させたい。

4 情報を主体的に評価・批判して活用する能力の育成を

調べ学習の際に、インターネットや図書資料から得た情報について、言葉の意味や内容を理解しないまま引用したり発表に利用したりする児童生徒がいるという。大学では、学生のレポートに「コピペ」（コピー＆ペースト）が氾濫していることが問題になっていて、その対策として「コピペ」率を算出するソフトが開発されたとのことである。また、教科書に書かれていることはすべてからく正しいと信じていて、無批判に受け入れたり感動したりするものと思っている生徒がいるという。

このような状況は、学校教育における情報教育において欠けていた点が、結果として表れたものとも考えられる。情報活用能力の育成の重要性については従前から言われていたことではあるが、教材から得られる情報を主体的に評価・批判して活用するという視点を確認して、国語科としても情報活用能力の育成の充実を図りたい。

論説や評論といった論理的な文章だけでなく、事例2や事例3のように文学的な文章においても、情報を評価したり批判したりした上で自分の思いや考えを表現させる指導を工夫したいものである。

高等学校における教科指導の充実
国 語 科
PISA型「読解力」を育む指導の工夫

発 行 平成21年3月
栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>